

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
草野純子、中村いお美	2年次前期	必修	2	60	演習	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	授業概要/対象者の健康の維持・増進および疾病から回復するために必要な日常生活行動援助を理論的、実践的に考えるとともに人間のニーズ、セルフケア能力に応じて援助できる基本的な技術を修得する。既習の知識や講義・演習での知識を統合し、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を高め、対象者の生活を捉えた援助技術を探求する。授業は、講義・グループワーク・演習を組み合わせながら展開する。演習においては、技術取得を目的にiPadを用いて動画を撮影し、グループや個人で振り返りを行う。さらに演習記録用紙を用いて、学生同士で演習後に自己学習を深める。ポートフォリオに、事前・事後学習を含めて学習した内容を整理する。課題に対するフィードバック方法/提出されたレポートについては、全体に向けての学習の視点などの総評を授業内で行う。また、リアクションペーパーに関する質問等に対する説明を行う。 *実務経験を持つ教員が授業を進める。							
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	①対象者の自己充足できていない日常生活行動のニーズについてアセスメントすることができる。 ②対象者に必要な日常生活行動援助の内容を考え、方法を選択することができる。 ③対象者の安全・安楽・自立を踏まえた日常生活行動援助を考え、実施することができる。 ④実施した援助を振り返り、対象者に応じた援助技術を探求することができる。 ⑤日常生活行動援助を行う上での倫理的配慮・礼節・態度を遵守することができる。							
時間外学習に必要な内容・時間	【事前学習】 ①指示された教科書や参考書について熟読する。(各30分) ②授業内で行うグループワーク時に必要な課題内容についてまとめる(各30分) ③演習前学習:教科書や講義、ヘルスアセスメントで学習した内容を復習し、一連の流れや観察項目・援助方法を学習する。(各30分) ④日常生活行動援助の統合では、患者への技術練習をグループにて行った上で演習に臨む(30分) 【事後学習】 ①講義・演習後は、配布資料や教科書の該当部分を振り返り、学びを整理する。(各60分) ②演習後学習:個人ワークもしくはグループで、学んだ援助技術の振り返りを行う。(各60分)							
授業計画	第1回・2回:【講義】ガイダンス 日常生活行動援助にかかわる看護の安全を守る技術、記録について 第3回～第6回:【講義・演習】活動・運動の援助技術 体位変換・移乗・移送 第7回～第10回:【講義・演習】食事の援助技術 食事の意義、栄養状態のアセスメント、食欲と摂食行動、嚥下のメカニズム、食事介助の方法、経管栄養 第11回～第14回:【講義・演習】排泄の援助技術 排泄の意義、排泄のメカニズム、排泄物の観察、排泄に影響を与える要因、排泄介助の方法 第15回～第24回:【講義・演習】清潔の援助技術 清潔援助の意義、清潔援助の種類、清潔援助の方法 (寝衣交換、清拭、部分浴、洗髪、陰部洗浄) 第25回～第30回 【グループワーク】日常生活行動援助の統合 事例患者のアセスメントをし、科学的根拠に基づいた援助計画を立案する。援助計画および実施は、安全、安楽、倫理に配慮しグループワークを通して実施する。						第1回・2回 講義:草野 第3～6回 講義:草野 演習:草野、中村 第7～10回 講義:草野 演習:草野、中村 第11～14回 講義:草野 演習:草野、中村 第15～24回 講義:草野、中村 演習:草野、中村 第25～30回 草野、中村	
評価方法 評価基準	定期試験 80%、事前・事後課題 10%、授業態度 10%							
教科書	・志自岐康子他編『ナーシンググラフィカ③ 基礎看護技術』メディカ出版(1年次前学期「看護技術概論」で使用したものを使用) ・任 和子編『基礎・臨床看護技術』医学書院(1年次前学期「看護技術概論」で使用したものを使用) ・大久保暢子編『日常生活行動からみるヘルスアセスメント』日本看護協会出版会(1年次後学期「ヘルスアセスメント」で使用したものを使用) ・東京医科大学看護専門学校「よくわかる看護者の倫理綱領」 照林社					参考書等	医療情報科学研究所編『看護 技術がみえる①』MEDIC MEDIA	
学生への助言等	既習科目である「看護学概論」「看護技術概論」「ヘルスアセスメント」「健康と生活行動の科学」の科目内容を活用できるように、復習をして授業に臨みましょう。看護技術は授業の時間内だけで技術を修得することは困難です。そのため、各自で事前・事後学習、自己練習を繰り返していき、看護技術を修得していきましょう。わからないことがあれば、オフィスアワーの時間に対応し、技術の修得を支援します。							